

「新第5次振興計画素案」に係る地域説明会における質疑概要

日時	H23. 1. 27 19:30~21:00
会場	西部地区公民館 2階大会議室
出席者数	20名
質疑の内容<◇質問者、○副市長>	
<p>【アンケート結果等の公表】</p> <p>◇ (白岩の) 地域ワークショップに6回、夜に来た。8つの地域ワークショップが答申したと聞いた。市が実施したアンケートでは、4,000名の市民に送付したと資料にある。1,874人の回答があり46.9%の回答だったとのこと。その回答のポイントで、今後、力を入れるべき事業に回答が多いのは、「医師の確保75.6%」「水路、生活道路67.6%」など。地域のワークショップもあり、市で何らかの形で公表していると確信しているが、今日の説明会は高松・醍醐・白岩地区の3地区なので、会場が一杯になるのかと思ったら、そうでもない。もっと市民に(情報を)公表してはどうか。</p> <p>○ 市民アンケートの回収率が40%を超え、市政に対する関心の高さを感じる。アンケートは質問項目が多くて厚く、回収率が20%を超えればすごいという評価を振興審議会委員の大学の先生から言われた。市民が関心を持っているのは、うれしく思う。アンケートの結果公表については、基本的にはホームページに掲載して見てもらう。</p> <p>素案については、地区公民館と図書館においている。また、ホームページにパブリックコメントとして意見ができるようにしてある。パソコンを利用できない人は、地区公民館、図書館で意見を投函できるようにしている。</p> <p>◇ インターネットが使えない人のために、地区公民館の掲示板においてもらえたら。</p> <p>○ 今後は、地区公民館に閲覧用のパソコンを配置して、誰でも見られるようにしていきたい。操作が分からない人は、職員に声をかけてもらえば、操作の仕方を教えて見てもらえる。</p> <p>【市税等の滞納、市有地の活用】</p> <p>◇ 素案は素晴らしい。ここで聞くこととは違うかもしれないが、聞きたい。国・県・市も一緒だが財政難。市の徴収、回収できない滞納となっている金がある。相当の金額があるのではないか。事業税、市民税、国民健康保険税、医療費等、多岐にわたってあるのではないか。それぞれのセクションで何件、どれくらいの金額が明らかにしてほしい。我々市民の税金。過去5年くらいのを市民に知らせて欲しい。その中身の理由も多岐にわたると思う。経済的に大変なのは、みんなで助け合うのはわかるが、ごね得があるのではないか。正直者が馬鹿を見るのは駄目だ。ごね得を許してはならない。各セクションで回収に苦労している。集金はプロの回収人でないと難しい。他市町</p>	

村にないかもしれないが、回収専門の課をつくらねばいけないのでないか。ごね得が広がっては大変だ。法的に放棄の分も明らかにして欲しい。

次に、市の保有地だが、無数にあると思う。保有地について、今後の処分方法を明らかにして欲しい。こんな例があるが、寒河江市に隣接する市で、新しい道路が切れて、ある会社とのその道路に挟まれて3m×20mの土地が残された。その土地を買うとすれば、その会社の他には誰もいない状況であり、会社はその市に買い取りを申し出たが、「評価額でないと売らない」となり、結局は買わないこととなった。その土地は死土地となってしまった。死土地は処分すべきではないか。

- 市税の滞納について、具体的には大まかには市報に出しているが、詳細にはやっていないので、ホームページでの掲載を検討したい。

実態として、市税については納税してもらっている。去年は、13市の中で徴収率が1位だった。困っているのが国保税で、滞納が増えている。原因は、若い人が派遣で寒河江市内のアパートに入り、その後、リーマンショックで職を失い、転出してしまおうといったケースで、市内の人は、差し押さえとかでもできるが、転出者が増えて捉えられない。寒河江市だけでなく、他市も同様のケースが増えている。

ごね得的な人については、比較的少ない。納税相談で分割納入の方もおり、真面目に納めている方も多し。町ではもっと収納率が高いところもあるが、市の中では1位であった。細かい部分については、これから検討していく。

市有地の処分について、行財政改革指針により4年間やっている。処分できるものは処分してきたが、まだ少し残っている。また、旧醍醐小学校跡地などは、今後、地元と相談していかなければならないものは残している。その他は処分していく方針で考えている。

【市民荘のキャンプ場】

- ◇ 長岡山をいこいの場にする構想はいい。いこいの場として、畑に市民荘がある。これに付随してキャンプ場があり、これまで利用されてきた。このキャンプ場の広場が、個人に返還されたのか、現在は畑になっている。振興計画の中で、緑を重点的に大切にする、葉山の自然を守るという、森づくりの計画があったのかわからないが、キャンプ場のあり方について聞きたい。
- 畑のキャンプ場は利用者がいない。もともと子供会、スポーツ少年団が利用した時期があったが、10年以上、畑（はた）までいかず、いこいの森などへ移っていった。少子化で、身近なところでやるようになった。
- ◇ 畑のキャンプ場に人が行かなくなった原因は、近くに鶏糞を置くのでおいがひどくて、キャンプをする気になれない。環境面で何とかすれば復活するのではと思う。水道施設もちゃんとあるし。
- 実態はわかる。（鶏糞は）個人の持ちものなので何ともできない。商工観光課からもお願いした経緯はあるが駄目だった。

【西部地区のまちづくり、下水道整備】

◇ 基本構想・計画の3の都市基盤づくりの項目について。西部地区の町づくりが遅れている。国の機関では霞が関に集中しているように、寒河江地区に集中している。西部地区には、公共施設がほとんどなく、医療機関もあまりない。高齢者は、自分の子どもの車に乗せてもらって寒河江の医院に通っている。バスも一日に少ししかない。JR左沢線も10:30まではあるが、午後1時を過ぎると4時までには列車がない。日中、自分の子どもがいないと移動手段がない高齢者は困る。

下水道については、去年の秋に合併浄化槽の説明があつて、西部地区には下水道がこないかもしれない。そこで国の援助で合併浄化槽ということだが、何年後になるかははっきりとしたところがわからない。

町づくりについては一極集中でなく、平均的にやって欲しい。

○ 平均的というご意見は理解できる。しかし、一つは出来るだけ少ない税金で出来るだけ便利な生活をするには、少ない負担で効率的な町づくりをしなければ。足りない部分、病院や開業医は需要と供給の関係で町中に集中する。通うためのシステム、補完する形で負担を少なくして考えて工夫していきたい。その一つとして、JR・山交バスは通勤通学の需要のある時間は動いている。それが残っていれば利用促進をしていく。路線のないところは、補完システムを考える。三世同居のシステムが回っているが、この機能がなくなっていくとデマンド交通での補完など、それを含めて色々な方法を考えて基本構想に載せている。

下水道は、当初の計画では田代・幸生を除いたすべての地区に計画してきた。一番低い土地の西根の日田に処理場をつくったが、密集住宅の市内はよかったが、三泉地区は家と家の距離があり、敷地も広い。人口が点在して、部落間の距離もある。新築は浄化槽をする家が多い。下水道方式も考えたが、合併浄化槽も可能になった。その方が効率がいい。西部地区と柴橋地区の一部で計画をつくっていく。平成23年度に計画をし、24年度から実施していきたい。

◇ (合併浄化槽を入れる) 戸数が1年間で30戸程度と聞いた。申し込む人は市で申し込みを取るが、数が少ない。何年かかるか分からないとのことだった。

○ 建替えをする方は即、申し込みとなる。今、合併浄化槽を使用している人は、それを市が譲ってもらい市のものとする。酒田市、長井市の例を参考にして考えていきたい。

【公共交通】

◇ 交通アクセスが不便だと息子に嫁もこない。バスも列車も少し増やして欲

しい。人口、少子化にもつながってくる。

- 市として、JRやバスをみんな利用しましょうという取組みをやりながら、(JR・山交バスも)利益がでるようにしていきたい。山形交通と市とで話し合いをして利便性があがるように取り組んでいきたい。

【チェリーランドの整備】

- ◇ 3の暮らしに便利な都市基盤づくりの中で、くつろぎの場所としてチェリーランドの再生整備があるが、チェリークアパークもあるし、整合性について聞かせて欲しい。
- 市民のいこいの場として、クアパークには最上川総合ふるさと公園があり、多くの人が利用している。だが、寒河江川沿いのものも大事にしていきたい。河川敷も含めて、いこいの場としての価値があると考えている。チェリーランドもいいところがあり、地域の貴重な資源と考えている。クアパークとは別な利用をしていきたい。